

2023

愛知大学国際研究機構主催第3回研究フォーラム



平野 克己氏  
「アフリカから見た中国と日本」  
へのコメント

李 春利

愛知大学国際中国学研究センター・経済学部

## 「アフリカ化する人類と日中の選択」



壮大な問題提起：世界経済の構造変化の中でアフリカ社会経済及び日中のポジションを把握→グローバル化の流れの中でアフリカの資源は世界経済の不可欠な要素として組み込まれていた。中国は牽引役。



アフリカの人口増加と北東アジアの食料安全保障。東アジア諸国を先頭に今世紀中に人口減少局面を迎えるが、アフリカでのみ人口が増え続ける。「いずれ遠からず人類の半分がアフリカ人になる蓋然性が高い」。平野克己『人口革命：アフリカ化する人類』（朝日新聞出版）



①Africa Rising神話：労働の比較優位を持たないアフリカと国家アプローチの限界→weak state



②East Asian Miracle神話：東アジアの奇跡には衰退の第二部がある。日中ともアフリカで実利をあげられていない。commitment が sustainable ではない。中規模国家化への対応→「**どうする家康？**」

## 「アフリカから見た中国と日本」



中国とのAU = アフリカ連合(前身はOAU = アフリカ統一機構、63年設立)の交流は長い歴史をもつ。中国の国連復帰(71年)にも大きく貢献。鄧小平時代には後退局面があったが、WTO加盟(01年)以降は急拡大。



「一帯一路」の中の「海のシルクロード」：中国のインド洋航路とアフリカの港との関係及びその実態。ジブチ(Djibouti)共和国には、フランス、米国、日本と中国の基地がある。日本と中国の初の海外基地。安倍首相の「自由で開かれたインド太平洋」(FOIP=Free and Open Indo-Pacific) 2016年にケニアで開催された「アフリカ開発会議」で最初に提唱。安倍構想の核心は、日米同盟を基軸にして、太平洋とインド洋を跨いで大西洋にまで及ぶネットワークを構築し、中国が提唱する「一帯一路」に対抗すること。経済面ではTPP、安全保障面ではFOIPを両輪として中国に全面的に対抗する構図。なぜアフリカを選んだのか？

